

みんなで取り組みめば心強い！

施設、デイサービス、ケアマネと一緒に輪番の「認知症カフェ」

千葉県我孫子市

我孫子市湖北・湖北台地区
高齢者なんでも相談室



星 良子（室長・主任介護支援専門員）

社会福祉法人 瑞邦会

我孫子市の概要（2019年4月1日現在）

人口：132,167人

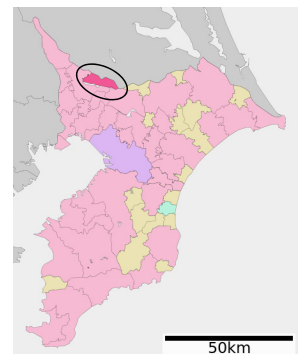
高齢者数：39,677人（高齢化率 30.0%）

面積：43.15km²

日常生活圏域数：6

地域包括支援センター：5（直営1、委託4）

推進員数：行政3名、委託10名 合計14名



我孫子市は、千葉県北西部に位置し、70年代ベッドタウンとして一部区画開発。当室担当の『湖北・湖北台地区』は、北側は集落として住家が点在する農村地区で、南側はUR都市機構公団を含む新興住宅街。

我孫子市の認知症施策



認知症早期支援

- ・ 認知症初期集中支援推進事業
- ・ 認知症ケアパスの普及
- ・ 認知症地域支援推進員の配置

認知症対応の介護保険サービス

- ・ 認知症対応型通所介護、介護予防通所介護
- ・ 認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護
- ・ 認知症対応型共同生活介護事業所の利用料助成事業

地域でのネットワークづくり（認知症高齢者見守り事業）

- ・ 認知症サポーターの養成
- ・ 徘徊探知システム貸与事業
- ・ SOSネットワーク事業

交流の場支援

- ・ 認知症家族介護支援事業
- ・ 認知症カフェ事業

認知症に携わる多職種連携

- ・ 認知症地域支援推進員の配置
- ・ 認知症ケアに携わる多職種研修の推進



我孫子市ゆるきゃら
手賀沼のうなきちさん

我孫子市の認知症施策から見る 私たちの活動の位置づけ

「認知症早期支援」

- ・ 認知症の方の閉じこもりをどうしたら解消できるか、地域と介護サービス関係者が連携して活動

「交流の場支援」

- ・ 施設、デイ、ケアマネジャーと一緒に輪番の認知症カフェ
- ・ 認知症サポーターになった小学生の体験的取組としてのカフェ

我孫子市から求められている 認知症地域支援推進員の役割



- 市内の高齢者なんでも相談室に1名以上配置
- 推進員は、専任ではなく「兼務」
- 高齢者なんでも相談室を認知症の人やその家族が、気軽に相談できる場所として位置付ける。
- 状況に応じて、必要や医療や介護サービスが受けられるよう、関係機関との連携を推進する。
- 認知症初期集中支援チームの紹介や認知症ケアパスの普及等、地域の実情に応じた相談支援体制の構築を図る。
- 市内の認知症カフェ、市が行う認知症家族のつどいへ参加

活動のきっかけ (個別事例の地域ケア会議)

- 認知症で閉じこもり状態になっている方の支援について、医師、ケアマネジャー、デイサービス、小規模多機能型居宅、市役所などが集まり、地域ケア会議を開催。
- その際に、「認知症の方で、最初デイサービスに行くのを嫌がる人が結構多いんですよ。」「慣れれば、すごく楽しんでいるんだけど…」、「施設に行くと、『もう終わり』って思う人も多いみたい。」などといった意見があがる。

活動前の状況

- 高齢者なんでも相談室の活動を通し、認知症と思われる方で、閉じこもりの方が多いと実感。
- 地区内に高齢者の施設が増えてきたが、地域の方は「施設ができたのは知っているが、何しているところか、よく分からない。」といった意見が多い。
- 「施設に行くようになったら、もうダメね。」と思っている方も少なくない。
- もともと、サロンや地域活動は活発な地区。20年前から高齢者の見守り活動やミニサロン運営している地区もある。
- 地域活動に熱心な事業所が多い一方、単独での活動に不安を感じている事業所や、運営推進会議から地域活動への発展がなかなかうまくいかないところもある。

地域ケア会議（地域課題検討）

参加団体（すべて地区内の団体）

- ① サロンなどの代表
- ② 特別養護老人ホームの施設長
- ③ 小規模多機能型居宅・グループホームの管理者
- ④ デイサービスの管理者

それぞれの活動内容や参加者の様子、地区の高齢者の状況などについて話し合う。

課題解決に向け “認知症地域支援推進員”の業務と位置付ける

「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」

（７）医療介護等の有機的な連携の推進

（認知症地域支援推進員の配置）

- 認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、認知症の容態の変化に応じすべての期間を通じて必要な医療・介護等が**有機的に連携したネットワークを形成**し、認知症の人への支援を効果的に行うことが重要である。
- このため、市町村ごとに、地域包括支援センター、市町村、認知症疾患医療センター等に認知症地域支援推進員を配置し、認知症疾患利用センターを含む医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の間の連携を図るための支援や、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行う。

立ち上げ！

- 認知症になっても、早くケアを受けられ、その人らしい生活が維持できる。認知症になっても地域のサロンや交流機会に参加できる、そんな街を目指して「**ほくほくケアねっと**」と名づけ、活動開始。
- 先ずは施設が地域に出て顔を合わせる機会を増やすことが重要。各サロンに施設の職員が参加し、体操やレクリエーションを一緒に行う。

活動振り返り⇒認知症カフェへ

- ・活動を一年間終え、再び地域ケア会議を開催。施設側からは「勉強になった。」「参加者の反応がすぐに感じられ、良かった。」等の声があがり、サロンからは「来てもらって助かっている。」「若い人が来てくれて、活気が出る。」「認知症の方がいらしても、プロの方がいるから安心。」といった声があがった。
- ・サロンの関係者より、「来てもらっている施設を見学する機会があると良いと思う。」との話しがあった。
- ・当初は各施設を回る「見学ツアー」を考えていたが、短時間で施設の内容や雰囲気は伝わるのか疑問に…



実際に施設を見学するだけでなく、体験的な企画・取り組みができないか検討



施設の休業日を利用した輪番制の認知症カフェ
「HokuHokuカフェ」開店へ

カフェの開催

(対象者) 認知症の方、その家族、認知症のことを理解しようと思っている
地域の人、介護や医療の専門職など

(実施日) 奇数月 第1 日曜日 13:30～15:30 ※希望者には送迎をする。

(場 所) 地区内のデイサービス、デイケア、小規模多機能型居宅介護の
休業日を利用。

(内 容) 当室が中心となり、輪番にて各施設で開催。

(構成員) 包括職員(推進員)、開催場所の施設とは別の施設の職員・ケアマネ

(参加費) 100円

キッズ店員も活躍

・小学校や中学校で認知症サポーター養成講座を実施

・カフェを認知症の勉強をした子どもたちの活動の場にしたい。高齢化社会の担い手となる子供たちは、認知症になっても安心して暮らせる街づくりにはなくてはならない存在。

・まずは、小学校側に趣旨を説明し、チラシ配布の承諾をもらい、養成講座後に配布

・すぐに希望者から申し込みがある

・ボランティア終了後には、証明書を交付



HokuHoku カフェ
認知症カフェってどんなところ??
物忘れが気になり始めた人が安心して
立ち寄れる場所
不安な思いを受け止めてもらえる場所

認知症カフェ

キッズ店員 ボランティア募集!!

認知症サポーターになった人で、お年寄りとおしゃべりしたり、飲み物やおかしをはこぶなどのお手伝いをやってくれる小学生のみなさんを募集します。

○日 時：3月3日(日) 午後1時～4時まで
○場 所：デイサービス○○ ～我孫子市△△△△0000
○集 合：12:30 までに湖北・湖北台地区高齢者なんでも相談室へ
(帰りは自宅まで送迎します。)
○対 象：認知症サポーターになった小学6年生の方
○内 容：カフェに来るお年寄りへ飲み物やお菓子をくばる、おしゃべりなど
○申込方法：お電話で受付(先着 3名) 2/18(月)締切
☆持ち物は、『オレンジリング』と『エプロン』と『お家の人の連絡先』
☆終了後、ボランティア証明書を発行します。

我孫子市湖北・湖北台地区
高齢者なんでも相談室

お問い合わせ
申し込み先
☎04-7187-6777・湖北台 1-12-19
(月～金・第1日・第2, 3, 4, 5土曜日 8:30～17:00)

工夫や配慮したところ

・日頃から担当地区内の事業所とのつながりを持つ！

・カフェの場所は「**輪番**」

・スタッフは、開催場所とは違う施設、事業所の人を配置
⇒営利目的にならず、参加者も色々な雰囲気味わえる。

・地区社会福祉協議会の委員になっており、地域住民とのつながりを持つことを心がけている。

⇒学校ともつながりが持てる。

・「来たくても来れない…」というニーズから送迎を実施

・出来る事は自分で！上げ膳据え膳ではなく自分でしてもらう。

の活動に取り組んでの効果

【参加者の声】

- 認知症の妻を介護する夫同士が、同じ席になりお互いの苦勞話をされた。「同じ境遇の人と話せてスッキリした。こんなことは友達には話せないからね」と発散する機会となった。
- 閉じこもりの夫をデイに通わせたい妻にカフェを紹介。今回は短い時間だからと夫を誘い参加。「同じ席になったケアマネジャーが色々話をしてくれた。デイはまだ拒んでいるが、次回のカフェは参加したいと言っている。」とカフェが外出の機会になった。
- 義姉の認知症に悩む男性が参加。ケアマネジャーに認知症ケアや介護サービスの話を聞き、一歩を踏み出すきっかけになった。

【参加している事業所の声】

- 地域密着型サービスに移行して、地域にどう出たら良いか悩んだ。実際に運営推進会議を開催して、一歩ずつ進めることが大切と分かった。この活動もそのひとつになっていると思う。
- 担当している閉じこもりの方にデイサービスを進めても利用に至らず。カフェと一緒に参加した。雰囲気良く、デイサービス行ってみようという気持ちになった。同じような方がいるので誘いたい。
- 施設の仕事では利用者さん、ご家族、ケアマネジャーなど会う人は限られていて、地域との関わりは少ない。地域に出て活動してみても、とても新鮮で刺激的に思えた。普段やっている体操やレクを地域向けにアレンジしたり、チャレンジすることが増えた。

【参加している小学生の声】

- 認知症サポーターになったし、楽しそうだったので参加した。
また参加したい
- 最初は緊張したけど楽しかった。他に夢があったけど、人の役に立つ仕事もしてみたいと思った。
- 折り紙やおしゃべりをして、とても楽しかった。みなさんの優しい笑顔がすてきだなと思いました。
- ニニに参加している人は地域の人なので、自分の家族と知り合いの人もあるかもしれない、何かあった時に知っているといいと思った。
- 何を話せばいいのか悩んだけど、趣味の話をするとうれやがるのがわかった。

推進員の役割：地域の連携の要役・ 市町村の認知症施策・支援の推進役

手段

【地域の支援の有機的なつながりをつくる】

- ・ 地域の支援者や支援機関の間の連携の要となる

目的

【認知症の人への施策・効果的な支援を推進する】

- ・ 有機的な連携を図りながら
⇒ 関係者の対応力向上、相談の拡充
⇒ 本人がよりよく暮らすための施策・支援を推進

めざしていること

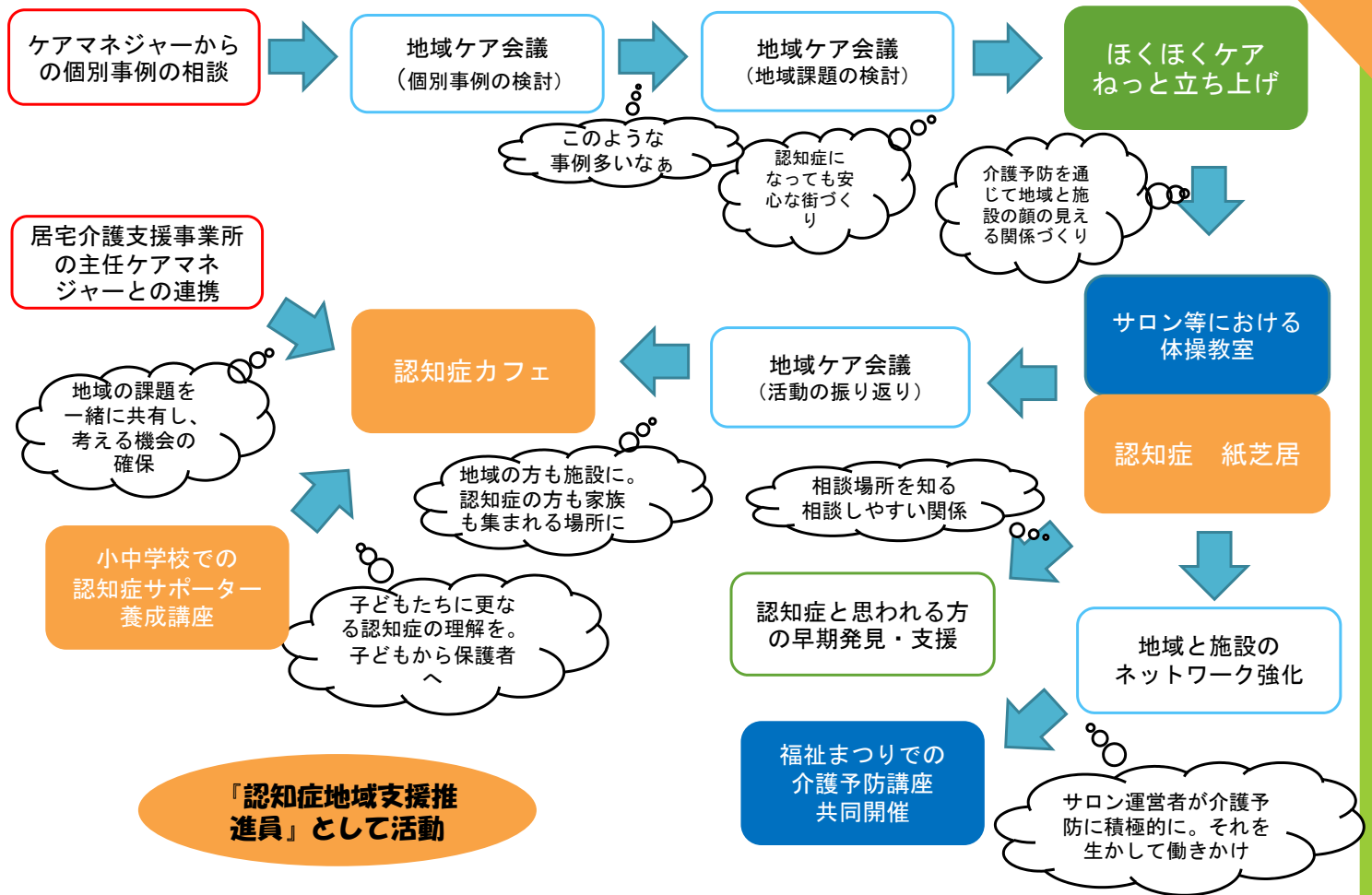
【本人が意思を尊重され、自分らしく暮らし続けられる地域の実現】

- ・ 自分の市町村で暮らす人が、認知症とともに自分らしく、よりよく生きていけるやさしい地域を築く

- ・ サロンと介護サービスとのつながり
- ・ 認知症カフェへの介護サービス関係者の参加調整

- ・ サロンの関係者が認知症の対応について知る（紙芝居等）
- ・ カフェでのCMによる介護相談
- ・ 介護サービス関係者が、より地域の理解を深められる

- ・ ほくほくケアねっとの目的



私たちの活動の意義と課題

●地域の認知症に対するイメージを変える

⇒認知症になったら終わりではない。早期発見、早期支援が大切

●認知症の初期から相談・支援が行えるようになる

⇒元気な時から顔の見える関係が作れる、地域組織と福祉関係者の強い連携が必要

●ケアに対するイメージを変える

⇒中度から終末期だけが介護サービスではない。サービスの充実性が求められる。

●認知症の方が住み慣れた地域で暮せるよう協力する。

⇒認知症への先入観を変え、偏見をなくす。

今後の活動

- 推進員だけでなく、地域にある施設や事業所など関係者の対応力を向上させる。
- 認知症カフェを活用し、地域課題について一緒に考える機会の一つに。
- 「キッズ店員」の募集を拡大。体験的な取り組みでさらなる認知症の理解を子供から保護者へ

認知症地域支援推進員は、

地域の支援者や支援機関の間の連携の要
連携を図りながら、関係機関の対応力を向上
させ、認知症の方がより良く暮らすための
施策や支援を推進することで、認知症と共に
自分らしく、生きていける、優しい地域
づくりを一緒に目指していきましょう！！

ご清聴
ありがとうございました。

